

第9回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成21年2月17日(火)13:00~15:00

項目	発言者	意見	内容	対応
<神通川左岸圏域河川整備計画>				
治水	A委員	河川整備計画策定の促進について	昨年7月の南砺豪雨では、普段穏やかな小矢部川が濁流で急激に増水するのを目の当たりにした。人命を第一とし、住民の声を反映させ、住宅に近い川の場合は早急に整備計画を立てる必要がある。末代までも安心できるよう計画を進めてほしい。	県民の安全、安心な暮らしを守るためにも、早期の計画策定に努めてまいりたい。
	B委員	安全性等への配慮について	坪野川の拡幅にあたっては近所付き合いが遠くならないよう、また学生の通学時の安全性に配慮して工事してほしい。	想定する洪水を安全に流下させるためには、代表断面に示すような河積が必要であるが、右岸側には下水道があることから、現時点では左岸側を拡幅することを考えている。今後は、住民の意見を聴きながら調整していくとともに、安全性に配慮し、必要な施設の整備を検討してまいりたい。
利水	C委員	本文の表現について 農業取水施設への影響について	(1)計画を進める上で、地域住民の協力は不可欠である。慣行水利権に関する記述については、感情を害することのないよう表現を改めた方が良くと思う。 (2)河川は治水と利水という相反する要素を備えている。治水のために河幅を広げると水位が低下するため、農業取水施設に影響が出ないように考慮してほしい。	(1)表現については、検討して修正したい。 (2)河幅を広くしたり河床を低下させたりすることで、破堤の可能性を低下させることができる。取水の合口化や維持流量の確保等、権利者と調整しながら進めたい。
その他	B委員	本文の表現について	「各河川の整備に関する事項」の文章が、川の名前と距離以外は全て同じである。それぞれの川で一番大事にしたいところを掴んで文章に盛り込んでほしい。	ご指摘を踏まえ、各河川の整備にあたっての基本的な考え方を盛り込みたい。
環境	D委員	流量の確保について	慣行水利権等の課題があることは承知しているが、平常の流れ、流量を確保することに配慮してほしい。計画そのものは法面や川底の処理に配慮がなされていて十分良いと思う。	利用者の協力を得ながら、希少な生物が生息し続けられるよう配慮して工事を進めてまいりたい。
<寺川水系河川整備基本方針>				
環境	E委員	親水性への配慮について	昔のように子供たちが川で遊べるようなイベントを開催しているが、寺川は川の規模が適当であり、中流～下流は砂礫河床で魚やバイカモも生息していることから、一定の断面で計画するのではなく、子供たちが川に入りやすい部分(膝以下の水深)と水をスムーズに流せる部分とを分ける工夫をしてほしい。子供たちが気軽に遊びながら自然体験ができる川を意識しながら河川整備を行ってほしい。	今後とも、十分に配慮してまいりたい。

第9回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成21年2月17日(火)13:00~15:00

項目	発言者	意見	内容	対応
<共通事項>				
その他	F委員	横断構造物の設置について	H20.3に国土交通省より「中小河川に関する河道計画の技術基準について」が通知されているが、県の河道整備において、床止め等の横断構造物の取り扱いをどう考えているか。	急勾配な県内河川の河床高を維持するため、また、既設農業用水の取水機能を確保するため等により、床止めを全く設けないことはできない。基本的には現状縦断を維持しながら必要に応じて横断構造物の整備を進めていきたいと考えている。また、必要に応じて魚道等の施設も設置していく必要があると考えている。